

令和 2 年度

環境基本計画事業点検・評価シート

一次評価 令和3年7月9日
二次評価 令和3年11月10日

項目	太陽光発電システム設置補助件数	担当課名	環境上下水道課
		関係課名	
環境像	地球温暖化対策の推進「住民みんなで地球温暖化問題に取り組むまち」		
事業名	太陽光発電システム設置補助事業		

◆事業概要

事業の概要	対象 (誰を、何を)	設備設置者	手段 (どのように)	設置費の一部を補助する
	目的 (どうしたいのか)	太陽光発電システムを普及させることで、節電や地球温暖化対策への町民の意識の高揚を図る		

◆目標及び事業の実績

※数的目標値が設定されていない事業については、最終目標値欄へ文字入力してください。	
目標	10 基/年
前年度実績	太陽光発電設備: 予算10件、実績3件 蓄電池: 予算3件、実績4件 HEMS: 予算3件、実績1件

◆一次評価：進捗状況評価(担当課)

評価	B	評価基準	
		S: これまでの実績に大幅に上乘せ、目標達成	C: これまでの実績より後退
		A: これまでの実績に上乘せ	D: これまでの実績より明らかに後退、未実施
		B: これまでの実績を維持	
	コメント		
平成21年度より補助制度を開始し、令和2年度末までに172件へ補助を実施した令和元年度及び令和2年度は3件にとどまっており、更なる普及のための啓発を要する。平成29年度に策定した「中井町地球温暖化対策実行計画」にて、目標値を300件と定めており、今後も事業を継続していく			
事業実施上の課題及び今後改善すべき点等(具体的に)			
太陽光発電設備に加え、蓄電池及びHEMSへの補助も実施しており、創エネ、蓄エネ、省エネの一体とした普及を図る			

◆二次評価：事業評価(推進委員会)

※上記の事業データ及び進捗状況評価を参考に、推進委員会として総合的視点から評価します		
今後の方向性	B-2	<p>A. 継続実施すべき事業である</p> <p>B. 改善・見直しを行うべき事業である</p> <ul style="list-style-type: none"> ├ 1 拡充すべき事業である ├ 2 抜本的見直しが必要な事業である(手段の見直しなど) └ 3 縮小すべき事業である <p>C. 休止・廃止すべき事業である</p> <p>D. 早急に着手すべき事業である</p>
総評	創エネ及び地球温暖化対策から考えれば必要な事業ではあるが、今のまま補助するだけでは拡充はない。目標値300件というのが10年間のものだとしてもこの小さな町としては多いと感じる。それよりも別のアプローチで町民の意識の高揚を図ってほしい。今後の取組みとして、太陽光発電システムの特徴をPRし、展示紹介等で普及する活動を行っていく。ソーラーパネルの設備による鳥類の生息への影響、反射光の影響、自然災害、火災になった時の対応をどうするかなど対策の検討も必要である。	

令和 2 年度

環境基本計画事業点検・評価シート

一次評価 令和3年7月9日
二次評価 令和3年11月10日

項目	エコドライブ啓発活動	担当課名	環境上下水道課
		関係課名	総務課
環境像	地球温暖化対策の推進「住民みんなで地球温暖化問題に取り組むまち」		
事業名	エコドライブ推進事業		

◆事業概要

事業の概要	対象 (誰を、何を)	町民・事業者	手段 (どのように)	エコドライブの啓発
	目的 (どうしたいのか)	エコドライブを推進することで車両から排出されるCO2を削減し、地球温暖化対策を図る		

◆目標及び事業の実績

※数的目標値が設定されていない事業については、最終目標値欄へ文字入力してください。

目標	1	回/年
前年度実績	なし	

◆一次評価：進捗状況評価(担当課)

評価	D	評価基準	
		S：これまでの実績に大幅に上乘せ、目標達成	C：これまでの実績より後退
		A：これまでの実績に上乘せ	D：これまでの実績より明らかに後退、未実施
		B：これまでの実績を維持	
	コメント		昨年同様、神奈川県等から配布されるステッカーやチラシ等の窓口配布のみで、町の事業としては各種イベントの中止もあり未実施。
事業実施上の課題及び今後改善すべき点等(具体的に)			
神奈川県の温暖化対策への取組(エコ10トライ等)や町のイベント、交通安全運動等と調整を図り、効果的に活動していく必要がある。 東名秦野中井I.Cに近いことから、Co2排出量において運輸部門事業所の割合が多くなっており、各事業所への啓発も重要となる。			

◆二次評価：事業評価(推進委員会)

※上記の事業データ及び進捗状況評価を参考に、推進委員会として総合的視点から評価します

今後の方向性	B-3	A. 継続実施すべき事業である B. 改善・見直しを行うべき事業である ├ 1 拡充すべき事業である ├ 2 抜本の見直しが必要な事業である(手段の見直しなど) └ 3 縮小すべき事業である C. 休止・廃止すべき事業である D. 早急に着手すべき事業である
総評	環境省の「エコドライブ10のすすめ」リーフレットを活用して推進することや、自治会と連携して幅広く推進する機会を設けてはどうかと思います。それよりもオンデマンドバス等の充実した運行について取り組んでいただきたい。エコカー自体が普及していることや、実績が数年以上なく、休止廃止にしても良いと思う。	

令和 2 年度

環境基本計画事業点検・評価シート

一次評価 令和3年7月9日
二次評価 令和3年11月10日

項目	環境家計簿参加者数	担当課名	環境上下水道課
		関係課名	
環境像	地球温暖化対策の推進「住民みんなで地球温暖化問題に取り組むまち」		
事業名	環境家計簿推進事業		

◆事業概要

事業の概要	対象 (誰を、何を)	町民	手段 (どのように)	環境家計簿を普及させる
	目的 (どうしたいのか)	家庭において環境家計簿を普及させることで、町民の地球温暖化及び環境保全への意識の向上を図る		

◆目標及び事業の実績

※数的目標値が設定されていない事業については、最終目標値欄へ文字入力してください。	
目標	10 人/年
前年度実績	太陽光発電システム等設置費補助金受給者3名 住宅用蓄電池設置費補助金受給者4名 HEMS設置補助金1名

◆一次評価：進捗状況評価(担当課)

評価	B	評価基準	
		S：これまでの実績に大幅に上乘せ、目標達成	C：これまでの実績より後退
		A：これまでの実績に上乘せ	D：これまでの実績より明らかに後退、未実施
		B：これまでの実績を維持	
	コメント		
太陽光発電システム等設置費補助金、住宅用蓄電池設置費補助金及びHEMS設置補助金の要件として1年間環境家計簿の提出が義務付けられており、実績値は補助金受給者数となっているが、1人で3種の補助金を受けている者もいるため、令和2年度は4件と数字が伸びていない			
事業実施上の課題及び今後改善すべき点等(具体的に)			
環境や省エネ面に加え経済面でのメリットも広報し、太陽光発電システム等設置者以外へもホームページ等を活用し普及啓発を図る必要がある これまでに蓄積されたデータについて分析、検証し、事業に活用することも必要となる			

◆二次評価：事業評価(推進委員会)

※上記の事業データ及び進捗状況評価を参考に、推進委員会として総合的視点から評価します		
今後の方向性	B-2	<p>A. 継続実施すべき事業である</p> <p>B. 改善・見直しを行うべき事業である</p> <ul style="list-style-type: none"> ├ 1 拡充すべき事業である ├ 2 抜本の見直しが必要な事業である(手段の見直しなど) └ 3 縮小すべき事業である <p>C. 休止・廃止すべき事業である</p> <p>D. 早急に着手すべき事業である</p>
総評	地道に継続することが肝心です。事業の手段、目的に対して目標を決め実施しており評価できます。太陽光発電システム等設置費補助金等に対して環境家計簿の提出が義務であり、目標達成に大きく影響していることが考えられます。そこで、太陽光発電システムを普及させるための施策を見直す必要がある。今までにこの事業で得たデータを分析検証し、今後の方向性を定める必要がある。	

令和 2 年度

環境基本計画事業点検・評価シート

一次評価 令和3年7月9日
二次評価 令和3年11月10日

項目	温室効果ガス排出量の削減量	担当課名	環境上下水道課
		関係課名	総務課
環境像	地球温暖化対策の推進「住民みんなで地球温暖化問題に取り組むまち」		
事業名	中井町地球温暖化対策推進事業		

◆事業概要

事業の概要	対象 (誰を、何を)	町民、事業所、行政	手段 (どのように)	それぞれが主体的に地球温暖化防止に取り組む
	目的 (どうしたいのか)	温室効果ガス排出量を削減する		

◆目標及び事業の実績

※数的目標値が設定されていない事業については、最終目標値欄へ文字入力してください。		
目標	26 %	2030年度で2013年度比
前年度実績	公共施設及び公用車燃料 二酸化炭素排出量 7kg/Co2/年 令和元年度:前年度比 -0.70% 平成20年度比 -7.88% 自治体排出カルテより CO2排出量 平成17年度 217(千t-CO2) 平成30年度 167(千t-CO2)	

◆一次評価：進捗状況評価(担当課)

評価	A	評価基準	
		S：これまでの実績に大幅に上乘せ、目標達成	C：これまでの実績より後退
		A：これまでの実績に上乘せ	D：これまでの実績より明らかに後退、未実施
		B：これまでの実績を維持	
	コメント		
中井町地球温暖化対策実行計画において、令和12年度に平成25年度比26%の削減として目標設定し、公共施設においては把握また削減への取組をしているところであるが、現状で町全体の数値を把握することが困難である。			

事業実施上の課題及び今後改善すべき点等(具体的に)

公共施設等では、二酸化炭素の排出量は減少傾向にある。
 定期的に調査をし排出量を把握する必要があるが、費用がかかる為当面は、データが古くなってしまいが環境省の自治体排出量カルテ等を使用し分析をしながら普及啓発を行っていく。
 地球温暖化は世界共通の課題である為、常に最新の動向に対応して推進していくことが必要となる。

◆二次評価：事業評価(推進委員会)

※上記の事業データ及び進捗状況評価を参考に、推進委員会として総合的視点から評価します		
今後の方向性	B-2	A. 継続実施すべき事業である B. 改善・見直しを行うべき事業である ├ 1 拡充すべき事業である ├ 2 抜本の見直しが必要な事業である(手段の見直しなど) └ 3 縮小すべき事業である C. 休止・廃止すべき事業である D. 早急に着手すべき事業である
総評	事業の対象を町民、事業所、行政とし、一次評価で町全体の数値を現状で把握するのが困難としている。費用が掛かるからできないでは理由にならない。先進自治体の動向を調査し見直す必要がある。地球温暖化は、世界共通の課題であり、最近では、集中豪雨や高温な日々が多くなっている。特に町民に対しては、身近でできる具体的な方法を提案・啓蒙し取り組んでいく。	

令和 2 年度

環境基本計画事業点検・評価シート

一次評価 令和3年7月9日
二次評価 令和3年11月10日

項目	食品ロス対策	担当課名	環境上下水道課
		関係課名	教育課
環境像	循環型社会「限りある資源を大切にすまち」		
事業名	ごみの減量化対策事業		

◆事業概要

事業の概要	対象 (誰を、何を)	町民、事業所	手段 (どのように)	それぞれが主体的に食品ロス対策に取り組む
	目的 (どうしたいのか)	食品ロスを削減する		

◆目標及び事業の実績

※数的目標値が設定されていない事業については、最終目標値欄へ文字入力してください。	
目標	食品ロス削減のための啓発
前年度実績	令和2年度あしがら上地区資源循環型処理施設整備調整会議のごみ質調査より、家庭系可燃ごみの食品ロスの割合は、6.27%(町内4か所の可燃ごみステーションで調査)

◆一次評価：進捗状況評価(担当課)

評価	B	評価基準	
		S：これまでの実績に大幅に上乘せ、目標達成	C：これまでの実績より後退
		A：これまでの実績に上乘せ	D：これまでの実績より明らかに後退、未実施
		B：これまでの実績を維持	
	コメント		
平成30年度から2年間足柄東部清掃組合にて排出量調査を行っていたが、今年度は、あしがら上地区資源循環型処理施設整備調整会議にて行うごみ質調査に変更となった。学校給食残渣を飼料として養鶏場に無償譲渡し、ごみの減量化を図っている。			
事業実施上の課題及び今後改善すべき点等(具体的に)			
今回の調査で、厨芥類のビニール袋の中に水分が多いものが多く見受けられた。生ごみの減量は、地球温暖化防止や焼却施設の延命化に効果的な事業であり、食品ロス対策や生ごみ処理機の普及を進めていく必要がある。また、可燃ごみとして排出された廃棄物の中に17.6%の「資源物」が含まれていた。他の1市4町と比較すると資源物の分別が図られていた結果となったが、さらなるごみ分別の周知をしていく必要がある。			

◆二次評価：事業評価(推進委員会)

※上記の事業データ及び進捗状況評価を参考に、推進委員会として総合的視点から評価します	
今後の方向性	<p>B-2</p> <ul style="list-style-type: none"> A. 継続実施すべき事業である B. 改善・見直しを行うべき事業である <ul style="list-style-type: none"> - 1 拡充すべき事業である - 2 抜本的見直しが必要な事業である(手段の見直しなど) - 3 縮小すべき事業である C. 休止・廃止すべき事業である D. 早急に着手すべき事業である
総評	事業目標である「食品ロス削減のための啓発」に対して実績では啓発できたのか評価していただきたい。また、今後の取組みとして「もったいない」精神を強調し、食品ロス削減に関心を持ってもらえるような啓発を推進してはどうかと思います。学校給食残渣を飼料として養鶏場に無償譲渡し、ごみの減量化を図っているとしていますが、具体的にどの程度の食品ロスを削減できたのか評価をしていただきたい。項目を食品ロスにせず、ごみの分別、水切りの徹底を普及させることとして、事業系のごみ対策と並んで「家庭ごみ対策」とすれば良いと思う。その方が取り組みやすい。生ごみ処理機やコンポスト購入の助成を充実させる。

令和 2 年度

環境基本計画事業点検・評価シート

一次評価 令和3年7月9日
二次評価 令和3年11月10日

項目	事業系ごみ対策	担当課名	環境上下水道課
		関係課名	教育課
環境像	循環型社会「限りある資源を大切にすまち」		
事業名	ごみの減量化対策事業		

◆事業概要

事業の概要	対象 (誰を、何を)	事業所	手段 (どのように)	ごみ排出状況の確認及び減量化の啓発
	目的 (どうしたいのか)	事業系ごみの減量		

◆目標及び事業の実績

※数的目標値が設定されていない事業については、最終目標値欄へ文字入力してください。	
目標	排出状況の確認、減量化・資源化の啓発
前年度実績	未実施

◆一次評価：進捗状況評価(担当課)

評価	B	評価基準	
		S：これまでの実績に大幅に上乘せ、目標達成	C：これまでの実績より後退
		A：これまでの実績に上乘せ	D：これまでの実績より明らかに後退、未実施
		B：これまでの実績を維持	
	コメント		
町内小中学校では、ペットボトルキャップ回収、インクカートリッジ回収、書道紙リサイクルプロジェクト、給食の牛乳パック回収などのごみの減量化・分別化やリサイクルの推進、節電対策などの環境活動に積極的に取り組んでいる。			
事業実施上の課題及び今後改善すべき点等(具体的に)			
ごみの減量化は地球温暖化や焼却施設の延命化に効果的な事業であり、町の人口が減少している中、事業所における減量は効果が高いと考えられる 事業者から排出されるごみの実態を把握し、資源化やリサイクルなどのごみ減量策を講じていく必要がある			

◆二次評価：事業評価(推進委員会)

※上記の事業データ及び進捗状況評価を参考に、推進委員会として総合的視点から評価します		
今後の方向性	B-2	<p>A. 継続実施すべき事業である</p> <p>B. 改善・見直しを行うべき事業である</p> <ul style="list-style-type: none"> ├ 1 拡充すべき事業である ├ 2 抜本の見直しが必要な事業である(手段の見直しなど) └ 3 縮小すべき事業である <p>C. 休止・廃止すべき事業である</p> <p>D. 早急に着手すべき事業である</p>
総評	平成30年度から項目に上がっているが未実施で目標が達成できなかったことは残念です。未実施となった要因はなにか評価をしていただきたい。中井町の一人あたりのごみ量が多いのは、事業系のごみ量が多いことが起因しているので、大量排出事業所に対するごみ減量化・資源化の指導強化を行うべきである。	

令和 2 年度

環境基本計画事業点検・評価シート

一次評価 令和3年7月9日
二次評価 令和3年11月10日

項目	不法投棄件数、量	担当課名	環境上下水道課
		関係課名	
環境像	循環型社会「限りある資源を大切にすまち」		
事業名	ごみの減量化対策事業		

◆事業概要

事業の概要	対象 (誰を、何を)	町内全域	手段 (どのように)	パトロールや監視カメラの設置、不法投棄物の早期回収により不法投棄されない環境づくり
	目的 (どうしたいのか)	不法投棄ゼロ		

◆目標及び事業の実績

※数的目標値が設定されていない事業については、最終目標値欄へ文字入力してください。	
目標	不法投棄ゼロ
前年度実績	不法投棄40件 2,070kg

◆一次評価：進捗状況評価(担当課)

評価	B	評価基準	
		S：これまでの実績に大幅に上乘せ、目標達成	C：これまでの実績より後退
		A：これまでの実績に上乘せ	D：これまでの実績より明らかに後退、未実施
		B：これまでの実績を維持	
	コメント		
不法投棄パトロールや清掃ボランティアによる活動、また、看板や監視カメラの設置等により不法投棄の量は減少してきているが、近年は建設廃材などの事業系廃棄物が多い傾向にある			
事業実施上の課題及び今後改善すべき点等(具体的に)			
これまでの対策で減少はしてきているが不法投棄はゼロにはならない 地域ぐるみの監視や警察等関係機関との連携をしながら、引き続き不法投棄ゼロを目指して事業を推進していく ごみステーションの不適切利用も不法投棄物として記録されることから、自治会等と連携しゴミの正しい出し方を周知、徹底させることも有効と考える			

◆二次評価：事業評価(推進委員会)

※上記の事業データ及び進捗状況評価を参考に、推進委員会として総合的視点から評価します	
今後の方向性	<p>A</p> <p>A. 継続実施すべき事業である</p> <p>B. 改善・見直しを行うべき事業である</p> <ul style="list-style-type: none"> ├ 1 拡充すべき事業である ├ 2 抜本の見直しが必要な事業である(手段の見直しなど) └ 3 縮小すべき事業である <p>C. 休止・廃止すべき事業である</p> <p>D. 早急に着手すべき事業である</p>
総評	不法投棄は重大な犯罪であり、定点カメラを設置するなど厳しい対応処置とごみ収集場所への異物放置写真を集積所へ張り出すなど対策を検討すべきである。自治会の協力を得て自治会単位で不法投棄ゼロ宣言をして町に登録し、パトロールや清掃活動などの防止対策に取り組みゼロ意識向上を図るなど環境づくりの施策を見直す。町外から持ち込まれるケースも多いだろうことを考えると町としての取組みは難しい。

令和 2 年度

環境基本計画事業点検・評価シート

一次評価 令和3年7月9日
二次評価 令和3年11月10日

項目	生態系調査実施	担当課名	環境上下水道課
		関係課名	
環境像	自然環境「四季を感じる自然と共生するまち」		
事業名	生態系調査実施事業		

◆事業概要

事業の概要	対象 (誰を、何を)	動植物	手段 (どのように)	定期的な調査の実施
	目的 (どうしたいのか)	調査結果を、町の資源として環境学習や観光等に活用するとともに、生態系保全の仕組みを構築する		

◆目標及び事業の実績

※数的目標値が設定されていない事業については、最終目標値欄へ文字入力してください。	
目標	定期的な調査、生態系保全の仕組みづくり
前年度実績	副読本を300冊増刷し、こども園や子育て支援センター、木の花保育園へ配布した。一般向けには、令和2年度は5冊を販売した。

◆一次評価：進捗状況評価(担当課)

評価	C	評価基準	
		S：これまでの実績に大幅に上乘せ、目標達成	C：これまでの実績より後退
		A：これまでの実績に上乘せ	D：これまでの実績より明らかに後退、未実施
		B：これまでの実績を維持	
	コメント		
中井町の生態系について一人でも多くの方に周知するために平成30年度に副読本を増刷し、引き続き販売をしている。			
事業実施上の課題及び今後改善すべき点等(具体的に)			
副読本の販売を含め町内の生態系について周知し、生態系の活用や保全の活動に繋げていく必要がある 保全するもの、活用するものについての整理が必要となる 平成23～28年度にて町内全域の調査が完了したが、今後も生態系の変化を把握するための定期的な調査が必要となる			

◆二次評価：事業評価(推進委員会)

※上記の事業データ及び進捗状況評価を参考に、推進委員会として総合的視点から評価します		
今後の方向性	A	<p>A. 継続実施すべき事業である</p> <p>B. 改善・見直しを行うべき事業である</p> <ul style="list-style-type: none"> ├ 1 拡充すべき事業である ├ 2 抜本的見直しが必要な事業である(手段の見直しなど) └ 3 縮小すべき事業である <p>C. 休止・廃止すべき事業である</p> <p>D. 早急に着手すべき事業である</p>
総評	生態系保全の仕組みづくりは、調査結果のカルテ(調査研究、保護整備、教育普及、情報管理、政策評価提言)を作成し、それぞれを一体化して取り込むことが必要であると思います。生態系は、常に変化しており、その実態を把握して対処することが、町の魅力である緑を保全することにつながると思います。今年、農地と関わりの深い希少種の生息環境が悪化していることに気づき、ボランティアで環境の手入れを行ったところ復元の兆しを得ました。この事例のように、毎年モニタリングは難しいかもしれないが3～5年スパンの現状把握は必要かと思えます。	

令和 2 年度

環境基本計画事業点検・評価シート

一次評価 令和3年7月9日
二次評価 令和3年11月10日

項目	森林等保全事業	担当課名	産業振興課
		関係課名	環境上下水道課
環境像	自然環境「四季を感じる自然と共生するまち」		
事業名	森林等保全事業		

◆事業概要

事業の概要	対象 (誰を、何を)	町内の森林	手段 (どのように)	国の水源環境譲与税や県の水源環境税の活用、また、日本の竹ファンクラブ等団体の活動により
	目的 (どうしたいのか)	里山の自然環境を地域資源として後世に引き継ぐために、森林の維持保全を継続していく		

◆目標及び事業の実績

※数的目標値が設定されていない事業については、最終目標値欄へ文字入力してください。	
目標	森林譲与税の状況を踏まえた事業計画の作成、事業の実施
前年度実績	令和2年度水源の森林づくり事業 雑色地区27.03ha、鴨沢地区25.62ha 令和2年度森林環境譲与税譲与金(1,224,000円)は、一部ナラ枯れ対策で使用 ナラ枯れ対策:道路沿い8箇所9本、中央公園内16本処置

◆一次評価：進捗状況評価(担当課)

評価	A	評価基準	
		S：これまでの実績に大幅に上乘せ、目標達成	C：これまでの実績より後退
		A：これまでの実績に上乘せ	D：これまでの実績より明らかに後退、未実施
		B：これまでの実績を維持	
	コメント		
神奈川県水源環境保全再生計画に基づき水源林の整備を進めている。 安全な生活環境を維持するために道路沿いなど危険なナラ枯れの処理を実施			

事業実施上の課題及び今後改善すべき点等(具体的に)

水源の森林づくり事業で整備した水源林の範囲は広がってきているが、整備後の管理が課題となっている。
日本の竹ファンクラブや里山研究会等による森林整備活動は継続的に実施されているがエリアは限定されており、整備した森林を維持するための体制でづくりは重要となる。
町内の森林は全て民有林であり、森林所有者の協力が不可欠となる。

◆二次評価：事業評価(推進委員会)

※上記の事業データ及び進捗状況評価を参考に、推進委員会として総合的視点から評価します		
今後の方向性	B-2	<p>A. 継続実施すべき事業である</p> <p>B. 改善・見直しを行うべき事業である</p> <ul style="list-style-type: none"> ├ 1 拡充すべき事業である ├ 2 抜本の見直しが必要な事業である(手段の見直しなど) └ 3 縮小すべき事業である <p>C. 休止・廃止すべき事業である</p> <p>D. 早急に着手すべき事業である</p>
総評	ナラ枯れだけではなく、森林が放置されている現状なので、危険な個所の伐採を実施する。森林環境譲与税譲与金の一部を使用とあるが具体的にいくら使用いくら残ったのか報告がほしい。活動を行っている人の年齢も高めなので、若手町民にも活動に参加・協力してもらえるような仕組みがほしい。森林所有者、町おこし協力隊、公共団体等により組織を立ち上げて、都心からすぐの身近な森を生かしたまちづくりをテーマに森林保全につながる木材を積極的に利用した町おこし事業を検討していただきたい。	

令和 2 年度

環境基本計画事業点検・評価シート

一次評価 令和3年7月9日
二次評価 令和3年11月10日

項目	荒廃農地等活用事業	担当課名	産業振興課
		関係課名	
環境像	自然環境「四季を感じる自然と共生するまち」		
事業名	荒廃農地等活用事業		

◆事業概要

事業の概要	対象 (誰を、何を)	荒廃・遊休農地等	手段 (どのように)	年間を通して農作物の収穫体験を実施し、中井町の農業をPRする。
	目的 (どうしたいのか)	年間を通して農作物の収穫体験を実施し、中井町の農業をPRする。		

◆目標及び事業の実績

※数的目標値が設定されていない事業については、最終目標値欄へ文字入力してください。	
目標	荒廃農地の実態把握、荒廃農地別の活用計画の検討、荒廃農地別の活用計画の実施
前年度実績	毎年、耕作放棄地等を活用した農作物収穫体験事業を実施してきたが、新型コロナウイルス感染症の影響で事業が中止となった。 新規就農者による荒廃農地の伐根・伐採が行われ農地に復元された。(2,210㎡)

◆一次評価：進捗状況評価(担当課)

評価	C	評価基準	
		S：これまでの実績に大幅に上乘せ、目標達成	C：これまでの実績より後退
		A：これまでの実績に上乘せ	D：これまでの実績より明らかに後退、未実施
		B：これまでの実績を維持	
	コメント		
農産物収穫体験事業には多くの方が参加されていたが、昨年は、新型コロナウイルス感染症の影響で事業が中止となった。			
事業実施上の課題及び今後改善すべき点等(具体的に)			
今後は、新型コロナウイルス感染症の状況を注視しながら農作物収穫体験事業の実施を判断する。 農作物収穫体験事業に協力していただける方の確保が難しくなりつつある。(米や野菜等の栽培管理者)			

◆二次評価：事業評価(推進委員会)

※上記の事業データ及び進捗状況評価を参考に、推進委員会として総合的視点から評価します		
今後の方向性	B-2	A. 継続実施すべき事業である B. 改善・見直しを行うべき事業である ┌ — 1 拡充すべき事業である ├ — 2 抜本的見直しが必要な事業である(手段の見直しなど) └ — 3 縮小すべき事業である C. 休止・廃止すべき事業である D. 早急に着手すべき事業である
総評	収穫体験ではなく、肥培管理をすべて行う事業に見直しをする。指導者は県とJAに依頼してはどうか。農作物収穫体験事業以外に荒廃農地の活用事業を見直して荒廃・遊休農地等を削減する施策を検討していただきたい。平坦地や形状のよい土地は機械も入るので新規就農者の募集などで生かす方法を検討する。	

令和 2 年度

環境基本計画事業点検・評価シート

一次評価 令和3年7月9日
二次評価 令和3年11月10日

項目	河川清掃実施範囲	担当課名	まち整備課
		関係課名	環境上下水道課
環境像	自然環境「四季を感じる自然と共生するまち」		
事業名	水辺保全事業		

◆事業概要

事業の概要	対象 (誰を、何を)	町民、自治会等	手段 (どのように)	町民が行う自主的な美化活動を支援するとともに、なかいクリーンタウン運動の一環として事業を行う
	目的 (どうしたいのか)	協働して地域の河川環境の保全に取り組むことによって、町の貴重な財産である水環境を保全し、町民が親しむことのできる清潔な環境を維持することを目的とする		

◆目標及び事業の実績

※数的目標値が設定されていない事業については、最終目標値欄へ文字入力してください。	
目標	1年あたりの清掃を行った河川延長を現状と同等以上とする
前年度実績	中村川及び藤沢川沿線の自治会等5団体が12,890㎡を年に2回草刈り(河川美化活動)を実施した。河川管理者より工事費として1,040,600円が支払われる。まち整備課は事務手続を支援している。

◆一次評価：進捗状況評価(担当課)

評価	C	評価基準	
		S：これまでの実績に大幅に上乘せ、目標達成	C：これまでの実績より後退
		A：これまでの実績に上乘せ	D：これまでの実績より明らかに後退、未実施
		B：これまでの実績を維持	
	コメント		
河川管理者は必要最低限の草刈りとする方針であることから、当事業により整然とした環境が保たれている。新型コロナに伴い1団体が当該事業の実施を見送った。			
事業実施上の課題及び今後改善すべき点等(具体的に)			
河川管理者と河川に隣接する町民等の河川環境に対する感覚に差がある。整然とした河川環境を保つには当該活動は有益であると担当課は評価する。手続き支援は当課でなく環境上下水道課でも実施は可能であり、事業概要に適した手法とすべきである。			

◆二次評価：事業評価(推進委員会)

※上記の事業データ及び進捗状況評価を参考に、推進委員会として総合的視点から評価します		
今後の方向性	B-2	A. 継続実施すべき事業である B. 改善・見直しを行うべき事業である ┌ — 1 拡充すべき事業である ├ — 2 抜本的見直しが必要な事業である(手段の見直しなど) └ — 3 縮小すべき事業である C. 休止・廃止すべき事業である D. 早急に着手すべき事業である
総評	評価をこれまでの実績より後退としているが、その要因は、新型コロナに伴い1団体が当該事業の実施を見送ったからなのかそれ以外に要因がないか評価していただきたい。家が小さな川と隣接しているが、清掃が行われているのを見たことがないしどこから川に降りられるのかも知らない。水質どうこう以前に景色として非常に残念な状態。町内には手入れがされている川もあるだろうが、もっと頻繁に、すべての川で参加しやすい形で清掃を実施したいものだ。根本的に水辺保全事業とは何かを考え直すべきではないか。今後は担い手も含め、どのように継続できるのか検討を始める時期かと思えます。	

令和 2 年度

環境基本計画事業点検・評価シート

一次評価 令和3年7月9日
二次評価 令和3年11月10日

項目	生活排水処理率	担当課名	環境上下水道課
		関係課名	
環境像	生活環境「健康で安心して暮らせるまち」		
事業名	生活排水処理率向上事業		

◆事業概要

事業の概要	対象 (誰を、何を)	みなし浄化槽(単独処理浄化槽)等	手段 (どのように)	広報啓発や戸別訪問により下水道区域は下水道に接続、補助事業を有効活用し浄化槽区域は合併処理浄化槽に転換
	目的 (どうしたいのか)	トイレ以外はたれ流しのみなし浄化槽等を無くし、下水道接続+合併処理浄化槽を100%にして、快適な生活環境への改善と公共用水域の水質保全を図る。		

◆目標及び事業の実績

※数的目標値が設定されていない事業については、最終目標値欄へ文字入力してください。	
目標	100%(2026年度)
前年度実績	下水道接続件数:R2年度34件104人(浄化槽等廃止12件34人)。合計1,997戸、5,218人、接続率75.0%(4.3p↑) 合併処理浄化槽:R2年度6件23人(補助実績2件10人)。合計295戸、990人、合併率43.9%(浄化槽区域、0.7p↑)、合併維持管理補助金R1年度5件、R2年度8件 生活排水処理率:下水接続5,218人+合併1,152人(含下水区域)=6,370/9,203=69.2%(1.9p↑)

◆一次評価：進捗状況評価(担当課)

評価	B	評価基準	
		S:これまでの実績に大幅に上乘せ、目標達成	C:これまでの実績より後退
		A:これまでの実績に上乘せ	D:これまでの実績より明らかに後退、未実施
		B:これまでの実績を維持	
	コメント		
少しずつではあるが、下水道への接続、合併浄化槽への転換は進んでいる。近隣と比べると、下水接続率はかなり低い。近隣市町はほとんどが90%以上です。浄化槽区域についても合併処理浄化槽の方が少ないという状況で転換の促進が必要です。			

事業実施上の課題及び今後改善すべき点等(具体的に)

意識啓発に努め、下水道区域については、接続の促進のため戸別訪問等を実施する。浄化槽区域については、合併処理浄化槽への転換の促進のため、R1年度より補助金の増額を行った。5人槽332,000円→440,000円、7人槽414,000円→552,000円、10人槽548,000円→728,000円、R8年度まで。また、合併処理浄化槽の性能を発揮するには適正な管理が必要で、維持管理補助金を新設した。1基5,000円。R2広報なかい6月号に掲載、7月までで7件の申請があり、伸びてきているが、補助額をもっと増額すべきかもしれない。

◆二次評価：事業評価(推進委員会)

※上記の事業データ及び進捗状況評価を参考に、推進委員会として総合的視点から評価します		
今後の方向性	A	A. 継続実施すべき事業である B. 改善・見直しを行うべき事業である ├ 1 拡充すべき事業である ├ 2 抜本的見直しが必要な事業である(手段の見直しなど) └ 3 縮小すべき事業である C. 休止・廃止すべき事業である D. 早急に着手すべき事業である
総評	生活排水処理率の向上事業を近隣と比べると、下水道接続率がかなり低いとしていますが、要因について費用負担が大きく影響していると思われます。補助金の増額も限度があり達成できないことが考えられ、解決策として難しい課題ではありますが、下水道と単独浄化槽の違いを明確にPRし、下水道に切り替えた場合のメリットを分かりやすく解説をするなど少しでも向上できる施策を検討していただきたい。目標を2026年度に100%としているが、実績との比較がわかりにくいので年度ごとに目標値を決めて評価できるようにしていただきたい。下水道や浄化槽というハードの充実は、水を大切にするという意識を育むことと相反すると思うので、個人的に促進への関心が持てない。環境中に流してまずいものを作らない買わない使わないことが大事。	

令和 2 年度

環境基本計画事業点検・評価シート

一次評価 令和3年7月9日
二次評価 令和3年11月10日

項目	工場排水調査件数	担当課名	環境上下水道課
		関係課名	
環境像	生活環境「健康で安心して暮らせるまち」		
事業名	工場排水調査事業		

◆事業概要

事業の概要	対象 (誰を、何を)	町内事業所	手段 (どのように)	鉱油類、プラント、コーティング業、食品業の下水道に未接続の事業所について、水質汚濁防止法に基づく環境基準での排水検査を実施する
	目的 (どうしたいのか)	油・塩基系溶剤などを使用している事業所の調査を行うことにより、河川への排水の安全を確認し、良好な水環境を保全する		

◆目標及び事業の実績

※数的目標値が設定されていない事業については、最終目標値欄へ文字入力してください。	
目標	年3事業所以上(県との連携分を含む)
前年度実績	3事業所の排水について検査を実施した

◆一次評価：進捗状況評価(担当課)

評価	B	評価基準	
		S：これまでの実績に大幅に上乘せ、目標達成	C：これまでの実績より後退
		A：これまでの実績に上乘せ	D：これまでの実績より明らかに後退、未実施
		B：これまでの実績を維持	
	コメント		
対象となる11事業所のうち毎年3事業所で検査を実施している 事業所を原因とした水質事故は平成26、28年度に各1件発生している			
事業実施上の課題及び今後改善すべき点等(具体的に)			
神奈川県で実施する事業所の排水検査との連携も考えていく 対象11事業所に対し毎年3事業所で実施しており、一事業所当たり約4年に1度の検査となっている 事業所の自主検査など対策の強化の検討も必要となる			

◆二次評価：事業評価(推進委員会)

※上記の事業データ及び進捗状況評価を参考に、推進委員会として総合的視点から評価します	
今後の方向性	<p>A</p> <p>A. 継続実施すべき事業である</p> <p>B. 改善・見直しを行うべき事業である</p> <ul style="list-style-type: none"> ├ 1 拡充すべき事業である ├ 2 抜本的見直しが必要な事業である(手段の見直しなど) └ 3 縮小すべき事業である <p>C. 休止・廃止すべき事業である</p> <p>D. 早急に着手すべき事業である</p>
総評	工場排水の河川への流れ込みは重大な事例となるので引き続き検査の継続をしてほしい。検査対象は全事業所にすべきだし、4年に1度は少ない毎年に行えないのか？事業所を原因とした水質事故は平成26、28年度に各1件発生しているとありますが、水質事故発生時に環境に影響がなかったか、その時の対策がどうであったか、再発防止策についての評価はどうであったか等継続して評価していただきたい。

令和 2 年度

環境基本計画事業点検・評価シート

一次評価 令和3年7月9日
二次評価 令和3年11月10日

項 目	町内一斉清掃参加人数	担当課名	環境上下水道課
		関係課名	まち整備課
環 境 像	生活環境「健康で安心して暮らせるまち」		
事 業 名	美化活動支援事業		

◆事業概要

事業の概要	対象 (誰を、何を)	町民、自治会等	手段 (どのように)	町民が行う自主的な美化活動を支援するとともに、なかいクリーンタウン運動の一環として事業を行う
	目的 (どうしたいのか)	協働して町の環境保全に取り組むことによって、清潔な環境を維持することを目的とする		

◆目標及び事業の実績

※数的目標値が設定されていない事業については、最終目標値欄へ文字入力してください。	
目 標	現状を維持する(2017年4,426人)
前年度実績	一斉清掃 参加者数 183名 可燃 640kg 不燃 20kg 毎年、8自治会に町内一斉清掃の時期に合わせて、町道の草刈り(7,260m)を年2回(5月・9月)行っていた。2年度はコロナのため町全体としては、中止としたが自治会によって自主的に行ったところもあった。

◆一次評価：進捗状況評価(担当課)

評 価	C	評 価 基 準	
		S：これまでの実績に大幅に上乘せ、目標達成	C：これまでの実績より後退
		A：これまでの実績に上乘せ	D：これまでの実績より明らかに後退、未実施
		B：これまでの実績を維持	
	コ メ ン ト		
令和2年度は、コロナの影響では中止とした。			

事業実施上の課題及び今後改善すべき点等(具体的に)

参加者数も毎年若干減少傾向にあり、人口や自治会加入率が減少傾向の中、一斉清掃を実施することで町の美化に加え、美化意識の向上や不法投棄されない環境づくりに繋がることから、更なる事業所や団体の活動を促すための啓発を継続する。
町と町民が主体性を持って清潔な環境維持に取り組むことが重要であり、継続した事業実施が必要である。

◆二次評価：事業評価(推進委員会)

※上記の事業データ及び進捗状況評価を参考に、推進委員会として総合的視点から評価します		
今後の方向性	A	<p>A. 継続実施すべき事業である</p> <p>B. 改善・見直しを行うべき事業である</p> <ul style="list-style-type: none"> ├ 1 拡充すべき事業である ├ 2 抜本の見直しが必要な事業である(手段の見直しなど) └ 3 縮小すべき事業である <p>C. 休止・廃止すべき事業である</p> <p>D. 早急に着手すべき事業である</p>
総 評	町民の意識向上から良い取り組みであり成果をあげているので引き続き実施してください。町内一斉清掃として全町民が取り組む事業ではありますが、自治会によっては自治会員が主体で、自治会未加入者が参加しない自治会もあり今後の課題として改善すべきテーマであると思います。拾ったゴミ、刈った草の量などで景品を出すとか、参加するたびにスタンプを押し、スタンプが貯まれば何かと交換できるとか、楽しい企画をすれば参加者も増えるのではないかと。実施日程を多くして参加人数をある程度事前に把握調整をする必要があるかとは思うが。	

令和 2 年度

環境基本計画事業点検・評価シート

一次評価 令和3年7月9日
二次評価 令和3年11月10日

項目	環境展等開催数	担当課名	環境上下水道課
		関係課名	
環境像	環境教育・学習「環境を学び・考え・行動するまち」		
事業名	環境展等実施事業		

◆事業概要

事業の概要	対象 (誰を、何を)	町民、事業所	手段 (どのように)	環境に関して学び、考える機会を提供する
	目的 (どうしたいのか)	環境への意識の高揚を図る		

◆目標及び事業の実績

※数的目標値が設定されていない事業については、最終目標値欄へ文字入力してください。	
目標	年2回以上
前年度実績	未実施

◆一次評価：進捗状況評価(担当課)

評価	D	評価基準	
		S：これまでの実績に大幅に上乘せ、目標達成	C：これまでの実績より後退
		A：これまでの実績に上乘せ	D：これまでの実績より明らかに後退、未実施
		B：これまでの実績を維持	
	コメント		
コロナの影響で、美・緑なかいフェスティバル及び環境展は中止となった。 環境については、意識づけのため繰り返し発信していく必要がある。			
事業実施上の課題及び今後改善すべき点等(具体的に)			
幅広い年齢層に環境問題に関心を持ってもらうための啓発が必要となる。 環境月間やフェスティバルに合わせて事業を実施しており、県や関係団体等との連携により、事業を継続していく必要があるイベントの自粛が続く中、啓発の手段を検討していく必要がある。			

◆二次評価：事業評価(推進委員会)

※上記の事業データ及び進捗状況評価を参考に、推進委員会として総合的視点から評価します	
今後の方向性	A A. 継続実施すべき事業である B. 改善・見直しを行うべき事業である ├ 1 拡充すべき事業である ├ 2 抜本の見直しが必要な事業である(手段の見直しなど) └ 3 縮小すべき事業である C. 休止・廃止すべき事業である D. 早急に着手すべき事業である
総評	コロナが落ち着いてから始動してください。継続することが大切です。コロナ禍でも環境への意識の高揚を図ることができる施策を学校、事業所、自治会、活動団体等の大小問わず対応可能な範囲で検討していただきたい。ショッピングセンター、公民館、自治会館等の空きスペースへの掲示を移動式でできないか。日常定期的に訪れる場所で何度も目にするものが意識改革に地味に効果的かもしれない。動画を再生してレポート再生しておくのも良い。

令和 2 年度

環境基本計画事業点検・評価シート

一次評価 令和3年7月9日
二次評価 令和3年11月10日

項目	自然観察会開催数	担当課名	環境上下水道課
		関係課名	生涯学習課
環境像	環境教育・学習「環境を学び・考え・行動するまち」		
事業名	自然観察会実施事業		

◆事業概要

事業の概要	対象 (誰を、何を)	町民	手段 (どのように)	自然観察会を実施する。
	目的 (どうしたいのか)	里山や水辺を中心とした動植物の生態系などを町民等に知っていただき、町の自然環境の保全等に積極的に取り組んでいただく。 特に子供達に対しては、自然の中で動植物と触れ合う機会を提供するとともに、町の特徴の一つである自然の豊かさや素晴らしさを伝え、将来の環境教育の担い手となるような人材育成を図る。		

◆目標及び事業の実績

※数的目標値が設定されていない事業については、最終目標値欄へ文字入力してください。	
目標	年5回以上(関係団体等との連携強化)
前年度実績	新型コロナウイルス感染拡大の影響により令和2年度は全ての事業を中止とした。 【令和元年度】・町子ども会主催(町から活動費補助金10万円を交付)による生物多様性ハイク(66名参加)や巖島湿生公園自然体験活動(年2回:夏24名参加、春41名参加)の実施など、親子等がふれあう場(観察、体験)を提供し、延べ131名(R1年度は199名)が参加し自然と触れ合った。

◆一次評価：進捗状況評価(担当課)

評価	D	評価基準	
		S：これまでの実績に大幅に上乘せ、目標達成	C：これまでの実績より後退
		A：これまでの実績に上乘せ	D：これまでの実績より明らかに後退、未実施
		B：これまでの実績を維持	
	コメント		
新型コロナウイルス感染拡大の影響により全ての事業が中止となってしまったが、生物多様性ハイクについては、子ども会役員により、毎年観察場所が検討されるなど、多くの町民(特に子供たち)にとって新たな発見の機会、貴重な体験の場となっている。			

事業実施上の課題及び今後改善すべき点等(具体的に)

・中井町は住んでいれば自然と十分触れ合えると思われがちだが、ネイチャーゲーム等を体験し普段とは違った目線で自然を見て触れることで、今まで見えなかった自然が発見できること、また希少な生物と出会いの場となることを観察会で知っていただくことが大切であり、そのためには事業に参加をしていただくことが第一歩であると考えている。
コロナ禍で事業の実施が困難ではあるが、コロナ収束後は更なる参加者の増加と事業の推進が図られるよう、関係団体等とも連携を強化するとともに、コロナ禍でも参加可能な新たな事業の検討・実施も必要であると考えている。

◆二次評価：事業評価(推進委員会)

※上記の事業データ及び進捗状況評価を参考に、推進委員会として総合的視点から評価します	
今後の方向性	<p>A</p> <p>A. 継続実施すべき事業である</p> <p>B. 改善・見直しを行うべき事業である</p> <ul style="list-style-type: none"> — 1 拡充すべき事業である — 2 抜本的見直しが必要な事業である(手段の見直しなど) — 3 縮小すべき事業である <p>C. 休止・廃止すべき事業である</p> <p>D. 早急に着手すべき事業である</p>
総評	自然観察会で自然体験できなくても、過去実施した記録映像があれば自然観察動画、スライドショー等を作成し、コロナ禍でも対応できるようなガイドラインに準じて、自然観察講座等で仮想自然体験できるようなことができないか、また、環境展と連携して対応できる施策がないか等検討をしていただきたい。参加者が興味を持つ事業内容を検討して参加者の増加と推進を図る。自然観察指導員、学芸員、研究家等にもっと積極的に依頼して企画を増やしてほしい。